

中学校第2学年社会科学習指導案

奈良教育大学大学院 教育学研究科

奈良市立若草中学校教諭 栗山泰幸

I 単元名 歴史的分野 近現代の日本と世界～開国と近代日本の歩み～
『明治新政府の成立と立憲国家についてプレゼン授業をしよう』

II 単元の目標

【知識・技能】明治維新と憲法の制定によって、近代国家としての日本の基盤が整えられ、社会全体が大きく変化したことを理解し、その知識を身につけている。

【思考力・判断力・表現力】明治新政府の諸改革と自由民権運動および立憲国家の基盤について、多面的・多角的に考察し、公正に判断して適切に表現している。

【学びに向かう力・人間性】明治維新の経緯や改革の内容、人々の生活の変化に対して関心を高め、周囲の人と対話的に学びながら、主体的に学びを深めようと追究している。

III 単元について

教材観

本単元では、富国強兵と殖産興業政策、文明開化の風潮を基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられ、人々の生活が大きく変化したことについて理解させることをねらいとしている。本時では、この単元のふりかえりをするにあたり、生徒一人ひとりの考えやプレゼンテーションの内容、方法を教材として、生徒同士が対話しながら学び合うことを大切にしたい。

生徒観

本学級の生徒は、個性豊かな生徒が多く、それぞれの特性をうまく生かしあいながら、生徒主体の授業をこれまで創造してきた。特に周りの人と対話しながら思考を深めたり、自分の考えを人により良く伝えようと表現したりする力に全体として秀でている。一方、ほとんど多くの生徒が自分の気持ちを健全にコントロールすることが難しかったり、自分の振る舞いを客観的に見るができなかったりするといった、思春期に見られる当然の課題を抱えている。なかまとともに学ぶ中で、これらの課題をそれぞれ肯定的に受けとめ合い、温かく前向きな人間関係・学びの集団づくりができるよう、1年時からピアサポートやグループ学習を積極的に取り入れ、互いのちがいや良さを認め合い、支え合う活動に取り組んできた。

指導観

授業者は、上記のような生徒の現状と課題は本学級生徒の大きな魅力であり、同時に授業者の資質・能力を向上させてくれていると考えている。生徒とともに学ぶ機会に敬意と感謝の気持ちを持ち、丁寧で上質な指導・支援ができるよう心がけたい。また、本単元ではこれまで以上に、正解のない課題について対話しながら学びを深めていくことが重要である。単元を通して、基礎的・基本的な知識技能を正確に習得させつつ、本時では子どもたちの対話を促し、納得解や創造解を生み出していける深い学びの時間を創造したい。

指導者の課題

現在、指導者が追求している主な課題は以下の通りである。

- 1 明るく真剣な表情や声、立居振る舞いが、指導者としての熱意や誠実さを感じさせるか
- 2 生徒が主体となって学ぶ授業を適切に展開できているか（教師主体の授業であってはならない）
- 3 授業の基本三要素である<指示><説明><発問>をより簡潔に、無駄なくできているか
- 4 生徒が変化、成長しようとする瞬間や言動を適切に受け止め、肯定的な態度で返答できているか
- 5 授業のLIVE感を楽しみつつ、学級全体の学びを適切に進行・整理できているか
- 6 配慮と遠慮を区別して毅然と指導しながらも、つまずきのある生徒への支援ができているか
- 7 確かな学力の向上を客観的に証明でき、学術的な考察が深められる授業となっているか

ESD との関連

単元設定のねらい **【ESDのための授業ではなく、ESDの観点を生かした授業へ】**

■ESDによって育む能力・態度

ESDによって育む能力・態度については、国立教育政策研究所の「学校における持続可能な開発のための教育(ESD)に関する研究[最終報告書]」(2012年3月)において提示された次の六つの構成概念(例)も参考とし、自分が行っている指導が、どの概念の理解を深めるものとなっているかを考えることが手がかりになります。そのうえで、ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の例として、以下の七つが示されています。

—持続可能な社会づくりの構成概念(例)—

- | | |
|------------------|-----------------|
| I 多様性(いろいろある) | IV 公平性(一人一人大切に) |
| II 相互性(関わり合っている) | V 連携性(力を合わせて) |
| III 有限性(限りがある) | VI 責任性(責任を持って) |

—ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度(例)—

- ① 批判的に考える力
- ② 未来像を予測して計画を立てる力
- ③ 多面的・総合的に考える力
- ④ コミュニケーションを行う力
- ⑤ 他者と協力する態度
- ⑥ つながりを尊重する態度
- ⑦ 進んで参加する態度

持続可能な開発のための教育(ESD) 推進の手引 (令和3年5月改正)

本単元の指導では、対話的な学びやプレゼンテーション授業（生徒自らが学んだことや考えたこと、他者や社会に伝えたいことを発表して考察を深め合う授業）によって、②未来像を予測して計画を立てる力、③多面的・総合的に考える力、④コミュニケーションを行う力、⑤他者と協力する態度、⑦すすんで参加する態度を育成したいと考える。

富国強兵や殖産興業といったスローガンの下に、解放令や維新の三大改革（学制、徴兵令、地租改正）によって、それまでの国家のあり方や人々の暮らしが大きく変化することとなったこの時代の学習こそ、学習者が主体となって「正解ではなく、納得解や創造解を生み出していく学び」にふさわしい。

上記のことから、本単元学習で達成が期待される SDGs として④質の高い教育をみんなに、⑩人や国の不平等をなくそう、⑪平和と公正をすべての人にが該当すると考えられる。

- IV 単元指導計画
- | | |
|-------------|------------------------|
| 1 新政府の成立 | 5 国境と領土の確定 |
| 2 明治維新の三大改革 | 6 自由民権運動の高まり |
| 3 富国強兵と文明開化 | 7 立憲制国家の成立 |
| 4 近代的な国際関係 | 8 <u>単元のふりかえり</u> (本時) |

指導目標	知識・技能	*	
<ul style="list-style-type: none"> 富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解させる。 自由民権運動、大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的地位が向上したことを理解させる。 明治維新の諸改革の目的、議会政治や外交の展開などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、明治維新と近代国家の形成、議会政治の始まりと国際社会との関わりについて、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。 明治維新と近代国家の形成、議会政治の始まりと国際社会との関わりについて、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解している。 ○自由民権運動、大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的地位が向上したことを理解している。 	C (1) ア (4) (7)	
	思考・判断・表現		C (1)
	<ul style="list-style-type: none"> ○明治維新の諸改革の目的、議会政治や外交の展開などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、明治維新と近代国家の形成、議会政治の始まりと国際社会との関わりについて、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 		イ (7)
	主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> ●明治維新と近代国家の形成、議会政治の始まりと国際社会との関わりについて、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 		

評価基準例 (東京書籍)

VI 本時のねらいと評価、展開

ねらい：明治新政府の成立と立憲国家についてプレゼン授業をしよう 評価：学びに向かう力・人間性、思考力・判断力・表現力 (学習活動の様子及びレポート)

	内容	活動
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ねらいの確認と行動目標の設定 これまでの学習の整理 (主体性や自己指導能力を高め、人間関係を構築・調整する対話)	<ul style="list-style-type: none"> 学習のねらいを全員で確認し、それぞれが設定した行動目標を対話して共有する。 Google クラスルームのレポート (まとメモリー) からこれまでの学習を振り返る。
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> 明治新政府の成立と立憲国家について生徒主体のプレゼン授業 (思考・判断・表現力を高め、学びを深めていく対話)	<ul style="list-style-type: none"> グループに分かれて、明治時代前期の政治と日本のあゆみについてプレゼンテーションを行う。 プレゼンテーションの内容は、学習内容の要約と説明、自分たちの考えをもとにした自由な主張や提案とする。 司会進行、質疑応答は生徒主体で行う。

ま と め 10 分	<ul style="list-style-type: none"> 本時で学んだことを要約し、自分の考えを整理する (メタ認知能力や自尊感情を高め、人間関係を構築・調整する対話) 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の要約と自分の気づきや考え、行動目標の自己評価について、簡潔かつ論理的な文章（まとメモリー）にしてまとめる。 まとメモリーをもとに、なかまと意見交換しながら互いの心情や変化を受け止め、成長をたたえ合う。
------------------------	--	---

・ICT活用の主な手立て

タブレット・Google Classroom・Quizlet・ロイロノート

・対話の三要素

自己との対話→素材・教材・課題との対話→他者との対話

・まとメモリー

授業者考案のレポート技法の一つ。学習内容の要約と自分の考えを、結論＋理由の順で簡潔に書いてまとめ、このレポートをもとになかまと対話することで、論理的に思考・判断・表現する力を育成してきた。

VII その他

プレゼン授業の意義・目的	評価の観点
<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲や学びに向かう人間性 基本的な知識理解や技能 思考、判断、表現力 <p>を互いに高めることが重要</p>	<ol style="list-style-type: none"> 話す・伝える技術 内容・テーマの魅力 チームワーク 聞き手としての姿勢・態度 質問・対話・議論する力

(表は栗山、2020)



育成すべき資質・能力の三つの、文部科学省